

平成29年度秋季研究発表会プログラム（確定版）

11月4日（土）

11:00	理事会		
14:00	開会挨拶		
14:05	特別講演 （司会：小野健太郎）	佐藤正之（三重大学大学院医学系研究科）	認知症に対する音楽療法：御浜-紀宝プロジェクト
15:05	休憩		
15:30	ポスター発表	田葱（日本大学大学院・芸術学研究科），三戸勇氣（日本大学・芸術学部），篠田之孝（日本大学大学院・理工学研究科），川上央（日本大学大学院・芸術学研究科）	楽器演奏時の感情と演奏動作の関係～クラシック・ギター～
		北村柚葵（東京学芸大学・教育学部，国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所 知的障害研究部），北洋輔，奥村安寿子，稲垣真澄（国立精神・神経医療研究センター・精神保健研究所 知的障害研究部），奥住秀之，石川裕司（東京学芸大学・教育学部）	幼児の音高弁別能力の発達－高低弁別に着目して－
		名原紫織（松江工業高等専門学校 専攻科・電子情報システム工学専攻），安井希子（松江工業高等専門学校・情報工学科），三浦雅展（八戸工業大学・工学部）	音価パタンに着目した演奏しやすいフレーズ抽出方法の検討
		上田和夫，中島祥好（九州大学大学院・芸術工学研究院／応用知覚科学研究センター）	臨界帯域フィルターを通した合唱音楽のパワー変動の因子分析：ケプストラム分析の適用
		正田悠（立命館大学・総合科学技術研究機構），土金諒（立命館大学大学院・スポーツ健康科学研究科），下實賢人（立命館大学大学院・スポーツ健康科学研究科），伊坂忠夫（立命館大学・スポーツ健康科学部）	生演奏における鑑賞者の心拍変動および複雑性：J-POPライブにおけるフィールド実験
17:00	休憩		
17:15	APSCOM6報告会		
17:45	表彰式		
18:30	懇親会		

11月5日（日）

9:30	口頭発表 座長：正田悠	小野健太郎（広島大学感性イノベーション拠点）	ピッチとリズムパターンによる知覚的体制化がMMNに与える影響	ピッチやリズムなどの特徴による音列の知覚的体制化が認知課題の成績を向上させることが知られているが、その神経メカニズムについてはよく分かっていない。そこで、音に対する脳活動が複数の特徴による体制化によって受ける影響をMEGで調べた実験について報告する。
9:55		柴玲子（東京電機大学・情報環境学部, RIKEN・BSI），古川聖（東京芸術大学・先端芸術研究科），根本幾（東京電機大学・情報環境学部）	音楽の終止構造による音のまとまりの認識と脳活動	音楽の構造認識による情動情報伝達への効果を調べるため、fMRIによる計測と解析を行った。その結果、終止構造を認識し音のまとまりを感じる際に、情動および運動に関連する脳の領域がより活発に働くことが明らかになった。
10:20		小堀聡（龍谷大学・理工学部），竹内太郎（ケンブリッジ大学）	タブラチュア譜から五線譜へー認知的観点からの記譜法の変化の検討ー	筆者らはタブラチュア譜と五線譜の記譜法の違いが認知過程に及ぼす影響について検討しているが、本報告では、歴史的文献に基づいてリュートやギターの記譜法の変化を調査し、その意味を認知的観点から検討した。
10:45	休憩			
11:00	チュートリアル (司会：谷口高士)	三浦雅展（八戸工業大学）	いまさら聞けないMIDI実験の注意点	
11:30	閉会の辞			

講演時間：発表18分，質疑応答5分，交代2分